

PICMET'14 (技術経営国際会議)



2014年金沢で開催

V. 2.5.5 (2014.4.23更新)

1

PICMETの紹介

(PORTLAND INTERNATIONAL CONFERENCE ON
MANAGEMENT OF ENGINEERING AND TECHNOLOGY)

- 1989年に米国オレゴン州ポートランド市に設立された非営利組織を中心に、毎年開催されている**技術経営**に関する国際会議です。48カ国から400人以上の参加を得、この分野の国際会議として、世界最大規模です。
- 西暦奇数年は米国(主としてポートランド)で開催されます。偶数年には下記の様に米国外の都市で開かれます。
 - PICMET'04 韓国(ソウル)
 - PICMET'06 トルコ(イスタンブール)
 - PICMET'08 南アフリカ(ケープタウン)
 - PICMET'10 タイ(プーケット)
 - PICMET'12 カナダ(バンクーバー)
- 2014年7月27日(日)～7月31日(木)に金沢市(ANAクラウンプラザホテル金沢)で開催されます。

2

国別論文著者数(PHUKET'10、PORTLAND'11)

1. Australia 2 2	25. Mexico 5 4
2. Brazil 42 42	26. Namibia 2 1
3. Canada 9 5	27. Netherlands 1 8
4. China 60 64	28. Nigeria 13 4
5. Colombia 2 4	29. Norway 1 -
6. Denmark 5 -	30. Pakistan - 6
7. Egypt - 2	31. Peru 2 2
8. Estonia - 4	32. Portugal 1 -
9. Finland 29 41	33. Russia 2 -
10. France 8 -	34. Rwanda 1 -
11. Germany 25 29	35. Serbia-Montenegro - 2
12. Great Britain - 2	36. Singapore 7 -
13. Hong Kong 5 4	37. Slovenia 4 2
14. Hungary 2 -	38. South Africa 23 40
15. India 18 12	39. Spain - 3
16. Indonesia 7 3	40. Sweden 11 7
17. Iran 10 -	41. Switzerland 1 1
18. Ireland 2 -	42. Taiwan 183 108
19. Israel 2 1	43. Thailand 58 50
20. Japan 63 75	44. Turkey 14 34
21. Jordan 1 -	45. United Arab Emirates 4 -
22. Korea, South 48 35	46. United Kingdom 5 12
23. Liechtenstein - 2	47. United States 83 158
24. Madagascar 3 4	48. Vietnam - 1

3

技術経営(TECHNOLOGY MANAGEMENT)とは

- 「技術経営」とは、イノベーション実現を中心に企業競争力を向上させるために、技術を有効に活用する企業経営のことです。
- その学問である「技術経営論」は、高度技術社会における「新しい経営学」として発展しています。
- 技術経営論の主要分野*
 - 技術戦略
 - 技術マーケティング
 - イノベーション
 - 研究開発
 - 技術組織
 - リスクマネジメント
 - 知識マネジメント

* 丹羽清『技術経営論』東大出版2006より

4

PICMET のコンファレンス・テーマ

～ 2004年から2013年まで～

- 2004 技術社会におけるイノベーション・マネジメント
- 2005 専門領域を融合させる技術経営
- 2006 グローバル社会を導く技術経営
- 2007 技術潮流のマネジメント
- 2008 持続可能経済のための技術経営
- 2009 大変革時代における技術経営
- 2010 グローバル経済成長のための技術経営
- 2011 エネルギー効率世界に向けた技術経営
- 2012 新台頭技術のマネジメント
- 2013 IT先導サービス産業の技術経営

5

PICMET'14 IN KANAZAWA-準備委員会

- 主催 PICMET日本支部 (PICMET-JAPAN)
- 協賛
 - 日立製作所, 東芝, PFU, 東日本旅客鉄道, コマツ, ダイキン工業, 竹中工務店, 三谷産業, EIZO, 中村留精密工業, アイ・オー・データ機器, 小松ウオール工業, 日本能率協会コンサルティング, 松本機械工業, 朝日電機製作所, 四画面思考研究所, 小堀酒造店, 芳珠記念病院, アール・ビー・コントロールズ, ニッコー, 東振精機, 小松電子, 本螺子製作所, 石川県IT総合人材育成センター, 北國銀行, 別川製作所
- 後援
 - 経済産業省, 石川県, 金沢市, 北陸先端科学技術大学院大学 (JAIST), 一橋大学イノベーション研究センター, 科学技術と経済の会, 研究・技術計画学会, 日本MOT学会, サービス学会, 日本MOT振興協会, 日本経済新聞社, 北國新聞社

6

PICMET'14 IN KANAZAWA-準備委員会

○ Chairs

- 丹羽 清(PICMET-Japan、東京大学)
- 井川康夫(IEEE, 日本MOT学会、JAIST)

○ Coordinators

- 澤谷由里子(PICMET-Japan、早稲田大学)
- 白肌邦生(PICMET-Japan、JAIST)

○ Members (50音順)

- 浅井政美(一橋大学)、内平直志(JAIST、IEEE)、太田健一郎(科学技術と経済の会)、長田 洋(日本MOT学会、東京工業大学) 梶浦敏範(日立製作所)、岩下敬三(竹中工務店)、香月祥太郎(立命館大学)、隅蔵康一(研究・技術計画学会、政策研究大学院大学)、山本外茂男(JAIST)

7

日本開催PICMET'14 コンファレンス・テーマ 「インフラとサービスの統合」

INFRASTRUCTURE AND SERVICE INTEGRATION

- インフラ(社会基盤)とサービスの統合は、新興国の効果的発展のためにも先進国の持続的展開にとっても、重要な挑戦課題である。
- PICMET'14では、「モノ作り」と「おもてなしサービス」の両方の実績を誇る日本が世界をリードして、これまで別々に議論されてきた「モノやインフラ作り」と「サービス提供」とを統合する有効なアプローチを議論・創造する。

8

「インフラとサービスの統合」の具体的課題例

- 効果的なスマートシティのコンセプト
- 新サービス内容をもつエネルギーインフラの構想
- 交通インフラの新サービス形態
- 東日本大震災地の再生・飛躍のための統合アプローチ
- 知識・情報インフラのサービスとは何か
- モノとサービスの統合商品
- モノのサービス化
- サービスのモノ化
- コンテンツ産業の新サービス方式
- 1次産業のサービス化のためのインフラ構想
- インフラとサービス統合の基本理論とマネジメント方法

9

御社におけるPICMETの価値

1. 御社のイノベーションや技術経営、さらに、「インフラとサービス統合」の先進性や実績を世界にアピールできる
 - コンファレンスでの講演やセッションの企画を通じて
2. イノベーションや技術経営に関心のある世界の研究者や企業の最先端状況を知り、御社がグローバル化に向けてネットワークを構築できる
 - コンファレンスでの議論・交流や、セッションへの積極的な参加(企画)を通じて
3. イノベーションや技術経営の研究と実践の国際的な最先端を知り、それらの成果を御社での経営に生かせる
 - 国際的レベルでの研究者・企業家の発表や議論を通じて

10

2014年PICMET日本開催のご支援:スポンサー

- ご支援内容
 - 資金的なご支援からプロジェクターやPCなどの機器などの支給
 - ディナー、ランチ、その他企画でのご支援
- スポンサー特典
 - PICMET会議における御社のロゴの掲示
 - 参加者バッグ、プレナリーセッション(全体会議)、Webサイト、冊子、会場
 - PICMET賞や学生賞授与会場、朝食、昼食、ディナー、コーヒーブレイク
 - プレスリリース、開催時のアナウンス
 - PICMET'14への無料参加
 - PICMET'14日本委員会への参画
- その他の特典
 - プレナリーセッション(全体会議)でのご講演
 - 事業の紹介、最先端の技術経営事例、重要課題提供
 - セッションの企画とチェア
 - 重要な課題についての集中討議

企業からのご支援タイプと特典 (SPONSORED BY)

ご支援金 (万円)	300以上	200以上 -300未満	100以上 -200未満	50以上 -100未満	10以上 -50未満	1-10未満
無料参加人数	8	6	4	2	1	0
御社名・ロゴ の表示	参加者 バッグ 又は プレナ リーセッ ション(2 回)	プレナリーセッ ション(1回) 又は award会場 又は ディナー会場 又は コーヒー休憩 (4回)	学生賞会 場 又は コーヒー休 憩(2回)	コーヒー 休憩 (1回)		*条件あり
支援タイプ Bulletin と会 場での表示	Co-Host	Sponsor	Associate Sponsor	Affiliate Sponsor	Supporter	Affiliate Supporter
御社名・ロゴ が表示される セッション数	12	8	4	2	1	0

*北陸地域の企業で構成される。技術経営に関するネットワーク「いしかわMOT」に御参加の企業様に限定させていただいております

活動によるご支援

- “supported by” ・・・・企業や団体を対象
 - PICMET日本委員会 (LAC:Local Arrangements Committee) に参画する
 - 従業員にPICMET学会の開催を通知し出席を促す
 - 金銭的支援や物的支援は行わない
- “cooperating society” ・・・・学会を対象
 - セッションの企画や、PICMET学会と連動した研究会開催
 - 学会員にPICMET学会の開催を通知し出席を促す
 - PICMET日本委員会 (LAC:Local Arrangements Committee) に参画する
 - 金銭的義務はない

13

国内 PRE-CONFERENCES

- 2012年6月2日 (東大駒場キャンパス)
 - 「インフラとサービスの統合:アプローチ」
- 2012年12月5日 (JAIST品川サテライト)
 - 「社会インフラとサービスの統合:先駆的事例とモデル化」
- 2013年5月25日 (東大駒場キャンパス)
 - 「インフラとサービスの統合:新しい価値を目指して」
- 2013年10月28日 (JAIST品川サテライト)
 - JAIST Global Innovation Seminar:「インフラとサービスの統合～PICMET-2014金沢開催に向けた準備討論」

14

(参考資料)

日本における技術経営関連学会・団体等

- 研究・技術計画学会 (JSSPRM)
- 日本MOT学会 (Japan MOT Society)
- IEEE TMC Japan Chapter
- PICMET Japan Chapter
- 科学技術と経済の会

(参考資料)

PICMETの組織

- PICMETは、ボードによって国際会議に関する戦略的な意思決定を行い、日々の実施を行うエグゼクティブ委員会と共に運営されています。

ボードメンバー

Chairman of the Board
Board Member
Board Member
Board Member
President and CEO
Executive Director

Dr. Tom Long
Dr. Robert Colwell
Les Fahey
Terry Rost
Dr. Dundar F. Kocaoglu
Ann White

エグゼクティブ委員会メンバー

President and CEO
Executive Director
Director of Technical Activities
Director of External Activities
Director of Finances
Director of Operations
Co-Director of International Activities
Co-Director of International Activities

Dr. Dundar F. Kocaoglu
Ann White
Dr. Timothy R. Anderson
Dr. Tugrul U. Daim
Dr. Antonie J. Jetter
Liono Setiowijoso
Dr. Kiyoshi Niwa
Dr. Dilek Cetindamar